

定例教育委員会会議録

(令和4年12月12日開催)

岡谷市教育委員会

定 例 教 育 委 員 会【議 事 録】

日 時 令和4年12月12日(月)
9時30分～

場 所 岡谷市役所2階202会議室
署名委員 藤森教育委員、高木教育委員

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 次期学校施設整備計画及び小中一貫教育の検討について【資料 No.1】 (教育総務課)

○ 報 告

1. 令和5年 二十歳を祝う会について【資料 No.2】 (生涯学習課)
2. 年末年始休業中の学校完全閉庁日について【資料 No.3】 (教育総務課)

○ そ の 他

- ・行事等について(各課)
- ・その他

【次回開催予定】令和5年1月6日(金) 15時00分～ 岡谷市役所2階 202会議室

出席委員

教育長 岩本 博行、職務代理者 草間 吉幸、教育委員 藤森 一俊、教育委員 高木 千奈美

欠席委員

教育委員 太田 博久、教育委員 小平 陽子

事務局(説明員)

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課主任指導主事 濱 敦志、
生涯学習課長 伊藤 恵、スポーツ振興課長 小松 隆広、
教育総務課学校教育主幹 横内 哲郎、教育総務課教育企画主幹 西山 塁、
教育総務課主査 新村 尚志

<会議録>

○開 会

岩本教育長：

本日は太田教育委員と小平教育委員が所用で欠席となります。

定例教育委員会の成立は教育委員の過半数の出席が必要となっておりますが、本日3名の教育委員が出席しておりますので、成立として進めたいと思います。

ただいまより令和4年度12月定例教育委員会を始めたいと思います。

本日の署名委員は藤森教育委員さんと高木教育委員さんをお願いしたいと思います。

○教育長報告

岩本教育長：

慌ただしさを感じる師走に入り、気が付けばまもなく令和4年が終わろうとしています。

今年は、長引く新型コロナウイルス感染症への対応に加え、ウクライナ情勢や原油高騰などの国際情勢の不安や、国内におきましても円安、物価高騰など、市民生活に様々な影響を及ぼす1年となりました。

そんな中ではありますが、サッカーワールドカップ日本代表の活躍は日本に活気と元気、そして感動をもたらすとともに、改めてスポーツの素晴らしさを感じたところであります。

今年も残りわずかとなりましたが、この1年にあった様々な出来事に思いを馳せながら、迎える新年が、全ての皆さんに、夢と希望に溢れる年となりますよう、お祈りしております。

それでは、本日も何点か報告させていただきます。最初に教育総務課関係についてであります。

11月22日（火）に岡谷東部中学校で行われた「東中メッセ」についてであります。

この取り組みは、東部中学校の校長先生がキャリア教育の一環として、2年生の生徒たちに地元にはこんなに魅力的な素晴らしい企業や団体が沢山あることを知って欲しいとの思いに立ち、今年初めて計画したものです。

メッセ当日は、岡谷商工会議所のご協力により、34の会社や団体の皆さんに参加いただき、体育館にそれぞれブースを設け、仕事や自社製品などを紹介していただきました。

岩本教育長：

私も当日の様子を拝見してまいりましたが、熱心に語りかける社員の皆さんの思いの大きさを感ずるとともに、生徒の皆さんは、そのお話を真剣に聞きながら、将来の自分に夢を膨らませることができたのではないかと感じました。

太田委員さんも、当日は説明員として参加していただいておりますので、後程、感想と思いましたが、本日はお休みですので、別の機会にお聞きしたいと思います。

初めての試みとなりましたが、子どもたちは地元の企業の凄さや魅力を知ることができ、自分の将来を考える素晴らしい機会になったのではないかと考えており、ご協力いただいた全ての皆様に感謝しております。

この取り組みは、地元の企業や団体にとりましても、将来地域を支える中学生たちと触れ合う良い機会となり、子どもたちに地元を愛する心を育み、地元ならではのキャリア教育となりますので、今回を契機に捉え、今後は全ての中学校で同様の取り組みが出来るかどうか、校長会等で検討してもらう予定です。

2点目は12月8日（木）に岡谷東部中学校の3年生6名が総合的な学習の時間を使って学習した、岡谷市のまちづくりへの提案を今井市長に発表する機会がございました。

当日は子どもたちが自分のGIGA端末で作成したパワーポイントの資料を見せながら、私たちが気づかなかったアイデアやひらめきなど、中学生ならではの新しい視点に立った6つの提案をいただき、子どもたちの堂々と発表する姿に頼もしさを感じたところでございます。

つづきまして、生涯学習課からは岡谷美術考古館の特別企画展についてご報告いたします。

岡谷美術考古館では、12月25日（日）まで「暮らしを彩る小さな作品展」と「ちいさくてもいいじゃないか みんなの0(ゼロ)号作品展」を開催しています。

作家たちは、展覧会での大型作品の裏に隠れがちな日用品として使えるような小型の作品も数多く制作していました。岡谷にゆかりの物故作家の小さな逸品を2階で展示しています。

また、1階交流広場では、特別企画展にあわせ、一般公募による0(ゼロ)号作品を100点以上展示しています。

岩本教育長： 私も先日、見せていただきましたが、どれも身近に飾って楽しめ、多様な題材、材質、技法でそれぞれに輝きを放っておりました。
丹精込めた力作をじっくりご観覧いただき、お気に入りの作品を見つけてみてはいかがでしょうか。

最後に、スポーツ振興課関係を報告させていただきます。

市民水泳プールでは、老朽化対策と長寿命化を図ることを目的に、10月から大規模改修工事を実施しております。

これまでプールの営業を継続しながら、屋根や外壁などの外部工事を行ってきましたが、12月8日（木）からプールを休館とさせていただき、屋内の内部工事に着手しております。

工事は来年5月のリニューアルオープンに向けて、計画的に進めておりますが、しばらくの間プールの利用ができなくなりますので、関係団体や利用者への周知に努めながら、ご理解とご協力をお願いしてきたところであります。

なお、改修後は施設の安全が確保されるとともに、安心して快適な環境でプールを利用することができますので、健康増進や体力向上のため、より多くの方にご来場いただきたいと思っているところであります。

私からの報告は以上であります。

ただ今、報告した内容に関して、教育委員の皆様から何か質問はございますか。それでは、本日の議事に入ります。

○議 題

1. 次期学校施設整備計画及び小中一貫教育の検討について（教育総務課）

<資料1に基づき、事務局より説明>

岩本教育長： 2つの内容について、報告を頂きました。それでは前段で、川岸小学校の施設整備について、質問や意見をいただき、後段では県内の小中一貫及び義務教育学校について意見をいただきたいと思います。
それでは、川岸小学校の施設整備について、よろしくお願いします。

草間職務代理者： 施設について、集約後も岡谷市の他の小学校と比べて面積が変わらないということで、十分に子どもたちの学習は保障されると思いました。
資料No.1-①の図のピンク色の部分について、お伺いしたいのですが、ここは他の用途の建物の併設や転換の可能性があるエリアということで、小中学校の施設とは切り離して考えてよいですか。
やはり、子どもたちの将来の成長のため、教育の場として残していただきたいという思いがあります。

草間職務代理者： このピンクの部分は教育委員会で考えていくのか、それとも市として考えていくのかをお聞きしたいと思います。

事務局(両角)： 今このエリアは小学校の敷地でございますので、それ以外の用途で異なる機能の建物をここに納めることが可能かどうかという検証については、教育委員会の範囲を超えているため、市で行っていくべきだと考えています。

例えば、児童福祉施設、社会福祉施設、地域のコミュニティなど、全国の事例を見ますといろんな先行事例があります。都市部の中には、音楽ホールみたいなものを図書館に併設するなど、多様性を持たせた学校づくりを行っている事例もありますので、この部分については教育委員会だけでは決められないと思います。

草間職務代理者： 広い敷地を小学校と中学校で使っているわけですので、是非とも教育に繋がるような利用にしていきたいと思います。

さきほど、説明があった両小野小学校の例でも保小中で連携12年間とありました。敷地の面積的にも環境的にも、ここへ子ども課で進めている保育園の統合計画が入るようであるならば、非常にいい適地だと思いますが、教育委員会としてはどのようにお考えでしょうか。

事務局(両角)： 今年度、同時進行で保育園の中期整備計画を市長部局である健康福祉部の子ども課で検討を進めております。

その中では、同じような視点で、少子化に対応した環境づくりということが議論されているようですので、この場所に幼児期の育ち・学びの機能が収まることについては、現在、国全体で進めている幼保小のかけ橋プログラム、本市の場合はおかや絹結プログラムとなりますが、幼保小中の連携を大事にしていく過渡期にあるということもあり、一つの有力な可能性にはなりうると思っています。

ただし、先ほど申したとおり、その中身については教育委員会のみで決定できるものではありませんので、可能性として有力なものの一つであると考えています。

草間職務代理者： 小一プロブレム解消のためにも保育園から小学校という直接的な繋がりがある教育が非常に望ましいと思いますので、ぜひ検討していただきたいと思います。

高木教育委員： 資料No.1-①の図のピンクの部分を除いても、右側の校舎で十分に学習が出来ると思います。今ある施設をできるだけ活用していくということで、右側の校舎を見ると校舎の1階には通常教室が入っていないということですよね。この想定では校舎の2階3階に1年生から6年生までの教室が入るという構想だと思います。これはあくまで想定ということだと思いますし、私も詳しくは分かりませんが、子どもたちの発達段階で1階の教室にいたることが必要な学年もあるのかなと思ったりします。

このような教室配置が本当に必要であると言えるのか、大規模改修に合わせてそのような改修というものが可能なのでしょうか。

事務局(両角)：　今ご覧なっただいただいているこの図はあくまでも数として配置し直したらどうだろうかということを検証しただけなので、具体の部分は今、高木教育委員がおっしゃった視点でどのように収めていったら、教育上一番良いのかというところを考える必要があります。

それは具体の設計プランの中で大前提になりますので、基本をどうしていくかというのはこれからの検討になります。

ボリューム感として収まるかどうかはそれよりも先に考えておく必要がありますので、具体性を持たせて配置させた作業用の図でありますので、これについてはまだ何も決まったものではありません。

よくあるのは小学校の１年生は１階に配置し、緊急時の避難などの視点でそのような配慮をしている学校がほとんどですので、まずはどこに何があるべきかを考えていきたいと思います。

ただし、市内の保育園では２階で年長さんが過ごしている園も実際にあり、そのような環境の中で過ごしてきた子どもたちがおりますので、全てが１階でなければ駄目なのかということ、実は知らないだけということもありますので、いろんな可能性を検討していきたいと思います。

藤森教育委員：　今の川岸小学校の校舎は昭和５４年、５５年辺りに新築されたものということで、当時は児童が増え、市内でも有数のマンモス校であったと私も記憶しています。

その中で改めて数字で見ると結構な面積、広さを持った学校であり、建設されてから４５年ぐらいが経過しています。

少子化が進む流れの中でこのような形で集約し、なおかつ施設整備していくという流れについては、前回の定例教育委員会の中でもお話ししたとおり、良いことだと考えております。

それによって、今日お示しいただいた図のピンクの部分が他の用途に転用できる可能性が出てくるという話も当然のことながら出てくるものと思います。

先ほど草間教育委員もおっしゃっていましたが、岡谷市でも絹結プログラム等で幼保小連携という話がある中で、先日の報道記事においても川岸地域が抱えている保育園の課題が出ておりました。

一つの可能性としては、保育園からの一体という形を考え、有効に活用していくのは良いのではないかと私自身も思っているところです。

教育委員会と市長部局において、それぞれ部署が異なる中で子どもに関すること、学校、教育に関することを決めていくわけですが、岡谷市の宝である子どもの教育や育ち、成長をどのように考えていくかという観点でいくと、今後庁内横断的な議論がされていくと思いますので、今後も活発に教育委員会として働きかけていただき、より良い子どもたちの成長、学びの場が将来的な構想の中で作られていくことを期待したいと思います。これは意見でございます。

岩本教育長：

ありがとうございます。それぞれご質問やご意見をいただきました。

図のピンクの部分はいろいろな可能性を秘めていて、私もワクワクしてくるわけですが、委員の皆さまからもお話があったように学びの連続性というところを大事にしていくと保育園の併設等も大きな選択肢の一つになっているということで、教育委員会だけでなく、それぞれの関係部局と今密接に連携して検討しているところであります。

実は子ども課は以前、教育委員会の中にありましたが、そこから分かれて、現在は市長部局に入っております。今は分かれているようで、実はそれがとても良いバランスで、子どもたちにとってどうしたら良いかを遠慮なく言えるような関係性を持ちながら連携をしているので、特に私自身も支障があるとは感じておりません。このまま進んでいっても大丈夫かなという感触を持っているわけですが、市民の皆様の中にはやはり教育の一貫性というものの中で、横断的な組織も必要ではないかというご意見があるのも承知をしております。そこら辺はまた、いろいろ具体的なものが進んでいく中で支障があった場合には市長部局とも相談しながら考えたいと思いますが、現在は両方が十分に機能して、連携をしておりますので、そこを大事にしたいと思っております。

高木教育委員から出していただいた校舎の活用という点については現場の先生方が毎日いろいろなことをやりながら、一番考えているところですので、現場の声をしっかりとお聞きしながら、未来の子どもたちにとってどういう環境が良いのか、しっかり見据えながら決めていきたいなと思います。

東部中学校の長寿命化にしても、西部中学校、神明小学校にしても校舎を作るときには先生方や保護者、地域の皆様の声をしっかりと聞きして、みんなで知恵を出し合って決めてきておりますので、今回もそういう形で進めていきたいと思います。

また、これからの未来、あと50年ということを見据えた場合に少し発想の転換も必要かなと思います。従来の枠組みにとらわれずに、あっと驚くだけのものではなく、未来を見据える中でこれを大事にしていくというものをしっかりと打ち出しながら、それに合った中身を考えていきたいと思っております。

また教育委員の皆様からもアイデアを出していただいて、一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

草間職務代理者：

もう一点、枠組みについて教えていただきたいと思います。

小中一貫教育について、義務教育学校と小中一貫型小中学校と大きく二つに分かれていると思います。教育長先生がおっしゃったように50年先を考えたときに、今度の川岸小学校の大規模改修に合わせて、岡谷市として、子どもたちの将来の幸せのためにどちらの方向性で取り組んでいくのがいいのか、方針もある程度決めてから工事を進めていくと思いますが、教育委員会としてはどのようにお考えでしょうか。

- 岩本教育長：** これは私が答えたほうが良いですね。
これからの教育というものを見据えたときに私も実際に塩尻市立榎川小中学校へ行って、現場を見せていただきました。
義務教育学校というのは優れた点がいくつかあって、新しい教育の方向とすれば、非常に先進的で学びが多い形ではないかなと思っています。現在のところ、小中一貫校をベースにしながら、出来れば義務教育学校まで高められれば良いと思っています。
- 特に川岸地区の利便性、特性を勘案したときにはその形がとっても合っていると考えております。
- いずれにしても実際に具体的なことをいろいろ考えていく中でどうするか、結論を出していくときには両方を視野に入れながら検討するわけですが、現時点での私の感触とすれば、義務教育学校まで高めることの方がより良いのではないかと考えています。
- 事務局(両角)：** 教育長の想いについて、これをもって方針の決定というものではないですが、さきほどお配りした資料 No.1-⑤を参考までに見ていただきますと、信濃町立信濃小中学校と大町市立美麻小中学校は小中一貫校に移行してから、義務教育学校になっており、段階を経て現在に至っておりますので、まずはどこを目指すのか、そのために具体的にどのように作り上げていくか、今回のような実例がありますので、参考にしたいと思います。
- 草間職務代理者：** これについては、校舎の改修と並行しながら議論をすすめていくということでしょうか。
- 事務局(両角)：** 小中一貫教育は岡谷市魅力と活力ある学校づくり推進プランのハード整備版において、具体的に検討を進めていくという位置付けですすでに出されております。これが実施可能な一番有力な学校が川岸小学校と西部中学校であって、まさにこの場所でそれが可能かどうかをこれから考えていきますので、ソフト・ハードの両面から検討を進めていきたいと思っています。
- 岩本教育長：** 本来ははっきりさせた上で、施設整備をした方がより良いと思っておりますので、今後スピード感を持って、私たちもしっかり検討しながら、そのために学びの創生・連携支援室を作りましたので、みんなで力を合わせて、その辺りを検討しているところでございます。
- それでは、濱先生の方から報告していただいた義務教育学校、両小野小中学校の施設分離型小中一貫について、何かお聞きしたいところ、或いはご意見がありましたら、お出しいただきたいと思います。
- 高木教育委員：** 先ほどの件で、信濃町と大町市が学校統合した時に特に信濃町は小学校が5校もありましたが、施設の的にも統合をしたのですか。それぞれ小さい学校のままでしょうか。
- 事務局(濱)：** 信濃町は信濃中学校の場所に新しい校舎を建設して、すべての学校を一つに統合したという形になります。

高木教育委員： 義務教育学校になっている学校についてはその施設は統合されているということですか。それぞれ校舎が離れているところで義務教育学校をされているということはないですか。

事務局(濱)： 来年度から開校する予定の大町市の八坂地区の学校だけは施設分離型で義務教育学校として、開校する計画になっております。

岩本教育長： 今はオンラインなど、ＩＣＴを活用しながら、一緒にいるような状況を作ることができるので、さきほど申し上げたように、今までは施設が一緒になければ出来なかったようなことが出来るようになってきました。

特に八坂地区は山間地ですので、一緒にするということの方が困難であり、分離型でとにかく挑戦してみるということで大変勇気のあることだと思っており、その結果を楽しみにしております。

高木教育委員： ありがとうございます。川岸小学校の放課後居場所づくり事業に参加させてもらった時に西部中学校の吹奏楽の生徒が川岸小学校の児童に演奏をしてくれたことがあります、すぐ隣に学校があるということをお願いをすれば、来てくれて一緒に交流することが出来るので、そういう点で本当に望ましい学校の立地だと以前から思っていました。

これがもっと進んでいけば、もっといろんなところで、一緒に活動出来れば良いと感じていたので、塩尻市立榎川小中学校についてお聞きして、小学校、中学校が一貫して学んでいくということは子どもの成長にとって非常に重要だということを改めて感じたところです。

榎川小中学校でチャイムをなくして自由度を高めるという取り組みがありました。私も以前にそれを経験して、なかなか難しく、教員の質が求められると感じました。義務教育学校となると教員免許状を小中両方の免許状を保有していなければいけないということもあり、ハード面だけでなくソフト面からも先生方のお力が必要で頑張っていたかないといけない部分がすごく多いと感じており、課題も多いと感じました。

しかし、その分、子どもたちの学び、成長にとって非常に良いところがあると思いますので、小中一貫の中でも義務教育学校という高みを目指していくというのは今の岡谷市であれば可能なのではないかと感じています。

岩本教育長： 濱先生が感じる先生方の課題みたいなものは何かありますか。

事務局(濱)： 免許状については小中両方の免許を持っていることが望ましいということですが、例えば、小学校、中学校の数学の免許、それから小学校の免許しか持っていない先生も中にはいると思います。義務教育学校の中でも、教科担任制を組んでいく中で、小学校の免許しかないけれど、低学年の専科を担当できるという割り振りなどを上手く工夫しながら取り組んでいるというお話もお聞きしています。

もちろん多忙だという課題もあると思いますが、先生方にとっては、小学校しか勤務していない、或いは中学校に勤務している先生が義務教育学校で勤務されることで、小学校を中心に勤務された先生方は中学校の生徒の学び方、学びのありようを一緒に学べますし、中学校を中心に

事務局(濱)：勤務されている先生方は小学校段階の子どもたちがどのように育ってきたのかを目の当たりにできるという意味で、先生方も育つ学校になっていくことが期待できるのではないかと視察させていただき、感じたところです。

高木教育委員：子どもとともに、教職員とともに育つというのはとてもよく分かります。

岩本教育長：今、濱先生がおっしゃったとおりですが、岡谷市は平成27～28年から小中の学びの連携をしっかりとやっていますので、岡谷市に来た先生方は、中学校の先生であれば、いつも小学校に行き行って学ぶし、小学校の先生は中学に行き行って学ぶ。免許があるなしにかかわらず、そういった学びをしながら、お互いの良さをしっかりと見て、自分たちの学校に積極的に取り入れていただいております、その経験がかなり蓄積されております。

よって、ゼロからのスタートというわけではないですから、義務教育学校になっても、そういった点で岡谷の先生方は小中で一緒にやるということが何となく当たり前に出来ているのではないかと思います。

何と云っても、子どもたちの前に立っていただく先生方の意識や力、これが義務教育学校の成否を決める一番の要素になると思っています。

その辺りについてはすでに丁寧にやっておりますので、あとは施設や組織を上手く組み合わせてやっていく。そのやり方については先進校からしっかりと学びながら、岡谷ならではのものを作っていく必要があると思っています。

藤森教育委員：今日いろいろ資料を拝見させていただいている中で、長野県内で小中一貫校を実践している学校を見ると、どちらかというと山間部のところが多く、市町村合併によって、いわゆる旧村だったところにあった小中学校が統合し、一つにまとまり小中一貫校という形になり、新しい学校のスタイルを通じて素晴らしい成果を上げていると感じました。

現状を見る限り、地域特性というものが大きく影響しているように思いました。ここからは仮説の話になりますが、今日の議題の中では、岡谷市の中で川岸小学校と西部中学校がほぼ同じ敷地の中にあり、将来的に小中一貫の学校に出来る可能性があるのではないかと云うことでして、私自身もすごくワクワクしています。

仮にそういった学校が市内に出来て、先ほど教育長先生がおっしゃったように、新しい発想と素晴らしい工夫がなされた学校が出来れば、これは本当に素晴らしいことだと思っていますが、岡谷市を全体で考えたときに、既存の小中学校にはそれぞれ学区の括りがあります。

現状では川岸地区の児童・生徒の皆さんが川岸小学校と西部中学校に通うのが一般的だと思います。他の湊地区や長地地区に住む生徒であれば、南部中学校や東部中学校にそれぞれ通うことになるわけです。

そのような中で市内に先進的なすごい学校が完成したとなった時に住んでいる地域によっては学区のジレンマのようなものがあり、岡谷市が今回の指針に沿ってやっていくとなると、学区というものが一つの問題

藤森教育委員： としてあるのではないかと思います。

当然、他の学校においても施設分離型でこういった形のもので出来るのか、教育委員会としても研究されていくということでしたので、市全体として、これをモデルケースとして一体的な義務教育学校というものを作って、その後、それを岡谷市全体の教育に対してどのような相乗効果を生み出していくのか、何かお考えがあれば、お聞かせいただきたい。

事務局(両角)： 岡谷市の場合は中学校が4校あります。施設整備に合わせた中身のソフト部分が小中一貫校の検討というところと結びついてくると思います。イメージしていただきますと、東部中学校も長地小学校とあれだけの距離が離れています。他の地域の中学校についても、小学校と通学区では繋がっていますが、物理的に近接しているのは川岸地区しかないという状況ですので、これから先、義務教育学校、或いは小中一貫校というものが出来たとしても、全地域で全く同じ形というものはなかなか目指せない困難さがあります。

ただし、教育の中で小中一貫を目指していくのは施設が離れていても一貫した方針のもとで繋いでいく、連携をしながら円滑な接続を図るところは大事にしなければいけない視点ですので、そのような考え方で全地域においてこれからどうしていこうか、これはステップアップしながら考えていくことになります。

近隣を見るとまさに諏訪市が同じような課題があって、今は諏訪市が先行しておりますが、そのような先進的な事例をいろいろ参考にしながら、岡谷市に合った形を考えていくべきだと思っています。

藤森教育委員： ありがとうございます。やはり、ハードの問題とソフトの問題と二つあって、両角参事がおっしゃったようにハードの部分で物理的に解決できないことをいかにソフトで解決していくか、さきほど申し上げたように岡谷全体の教育という視点の中で、それぞれの学校で特色を出しながら相乗効果を出していくということがすごく重要な視点だと思っていますので、そういった部分も含めて、またお話いただけたらと思います。

岩本教育長： 大変に大事な視点でお話をいただきました。もとより私たちもある特定の学校だけということではなく、全市的に教育力の向上を図っていかなければいけません。当然、他の学校においても、小中一貫校、或いは義務教育学校というものを同じように丁寧な、そして知恵を出し合ってみんなで考えていかなければいけないと思っており、すでにこの点についても検討を始めております。

ただし、同時期に一緒に実施するというのはなかなか難しいところがありますが、岡谷市全体を見渡しながら、同じようにできるところは同じようにやっていきますし、それぞれ地域の特性がありますので、それに応じたあり方を現場の先生方と一緒に考えていく。

また、地域からもいろいろな願いや想いがいっぱいあって、私たちもそういった地域の方の声を聞くことがあります。地域の皆さんの想いも

岩本教育長： しっかりとお聞きする中で、一緒になって、新しい魅力と活力ある学校づくりということを大事にしていきたいと思っております。

高木教育委員： 最後によろしいでしょうか。両小野小中学校は先ほどもお聞きしまして、小中一貫校ということですが、この保育園についても保小中一貫教育を推進と書かれています。保育園も入っている一貫教育というと岡谷市が今始めている絹結プログラムみたいなものと捉えれば良いでしょうか。

事務局(濱)： お伺いしてきたところでは、特に力を入れてやっているのは交流活動ということでした。そういったものを年間通して充実させているところが一番の特色だと思います。保育園の先生方と小学校の先生方の顔合わせの会合についてはほとんどないということで、これから充実させていくのが課題だと話されておりました。活動を充実させていくことで、保小の小一プロブレムの緩和をしていく、そのための様々な活動が準備されているのが特色だと思います。

高木教育委員： 先ほどの川岸小学校の施設改修後をどう生かしていくか、この両小野学園の取り組みがスタートになっていくのかなと思いました。

岩本教育長： ありがとうございます。
今日はお二人の教育委員さんがお休みですので、お二人からもご意見をいただきながら、教育委員会として一緒になって、検討を進めてまいりたいと思います。それでは、以上で議題は終了とさせていただきます。

続いて、報告事項に入ります。

報告事項の1、「令和5年 二十歳を祝う会について」、事務局より説明をお願いいたします。

○報告事項

1. 令和5年 二十歳を祝う会について（生涯学習課）

<資料2に基づき、事務局より説明>

岩本教育長： また、いろいろご協力をいただくところがありますので、よろしくお願いします。何かご質問ご意見ございましたら、よろしいですか。

開会と閉会の挨拶をどうするか、この場で決めてしまいますか。

事務局(伊藤)： 開会と閉会の挨拶ですが、前々回が女性の教育委員の皆さんにやっていただき、前回が男性の教育委員の皆さんにやっていただきましたので、今回は女性の教育委員の皆さんにお願いしてもよろしいでしょうか。開会と閉会のあいさつをどちらが行うか、決まった所でご連絡ください。よろしくお願いいたします。

岩本教育長： 続いて、報告事項の2、「年末年始休業中の学校完全閉庁日について」、事務局より説明をお願いいたします。

2. 年末年始休業中の学校完全閉庁日について（教育総務課）

＜資料3に基づき、事務局より説明＞

岩本教育長： 何かご質問ありますか。よろしいでしょうか。報告事項は以上でございます。

先に進めます。【その他】であります。行事等について、事務局よりお願いいたします。

○その他

・行事等について（各課）

＜各課より行事予定について説明＞

岩本教育長： 何か、ご質問等ございますか。よろしいでしょうか。教育委員の皆さんから何かありましたらどうぞ。

それでは、事務局より次回の開催予定についてお願いいたします。

事務局(両角)： 次回の定例教育委員会は、新年に入りまして、1月6日（金）午後3時～岡谷市役所2階 202会議室で予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

岩本教育長： それでは、以上で本日の定例教育委員会を終了いたします。
ありがとうございました。

11時25分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 5年 1月 6日

教 育 長

岩本博行

署 名 委 員

藤森一俊

署 名 委 員

高木千奈美

調 製 職 員

白上 淳